

詩集

今日の心算



菩提寺

二三

日 曉

早春雜草

失業者も春たうな

子
子
子
子
子
子
子
子

△
空字
續
下
夕
フ
サ
サ
カ
ル
来

無事

外
2
入
信
破
を
あ
ひ
や
の
け
来
は

13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 53

[illegible]

道石をけうたそ
 かきめり
 常下

生酔草虱
まゝ田を這
き上
撥へ
14く
2

△ 妻の望に負うて嫁の望に負えぬ

妻の力盟に於る、葎、煙

木まなぶし 自然のうらな

九月十日

件雨の夜の念を ^{あきらめた} 釋

信小居が需木した。

わ白は死ぬるなり。僅のだけ生き残る

カに解く

カ

^{自然の心を} 解く ^{自然の心を} 解く

曉野に猛歌が流さるは小や

大曲に演る大曲が流るる雲風雨がある

百姓の舞に連なり 柳や竹が流るる

草が芽生え 人は人なる 雷電に打ちあ

るるも 自然の心 運命にまか

自然の心

我らは自然に趣くまじきまなもをみえした

科の心は文化は 機械は 自然を 自然の姿か

る 志は 人の心は 信じての

け末で 解く 人は 自然の心

自然の心 自然の心 自然の心

昔の世の 自然の心 自然の心

自然の心 自然の心 自然の心

自然の心 自然の心 自然の心

自然の心 自然の心 自然の心

或る死刑囚

急に狂子男が似し女の小娘を誘拐した。

似し女は終身刑に處せられ

男は死刑を宣告された。

之會は囚ある一囚は死なると

獄を討あへんを公言した。

諒めなさい。悔いなさい

誹教師もすすめた。このさいをきか

ずせや光明を願ひなさい。

死刑囚がけろきりと言つた。

「おが悪いひいすた。

死刑を要すは罪なり

罪の中に死刑にふさわしう。大言中

かきし書方。悔いなさい

死刑囚は夜、獄をくつ獨り泣きつた。

神持。どうか生死命ばかりはす

神持。和らめがうる人びはひいすた

はのうま心ひす死刑囚
よ、死にたいな。死にたい。

1/2 + 1/2

女
と
男

井田盛雄

雜誌
分賣
乙
乙
乙

一
や
知
て
、
書
れ
る
て
一
や
る

あ
金
人
は
う
3
a

い
た
ん
た
ん
、
は
く
た
ら
る
て
い
や
う

い
ゝ
あ
比
事
ふ
ナ
フ
カ
リ
サ
ウ
ナ
ヲ
ル
、

1
今
12
24
2
27
3
27
1
や
;

彼女に歸つて
た僕を
と
う
て
泣
く
煙
笑

文人 27 才 0

僕
下
字
込
く
に
な
る
と
ぬ
ぬ
ぬ
に
も
心
が
揺
れ
る。

彼女如何
叔母
十二
年
紅梅
何處
叔母

何と
か
あ
や
わ
も
の
か
い
0

今日こそ
リヤ、おれものたの

[illegible]

我々皆のものな

その刹那

アッ！

その刹那に自動車かとうた。

！がしなくって？

！大はえ、

轉覆した自動車から轉け出た4.4は

雨の砂畑にしゃかんだ彼女と小犬におき

てアッた。

な人とりあなげな^{か、}始^{た、}ぬた

自転車の車輪が雨に叩いて

~~自転車の~~
からまきし

るびはなうか。

詩
生
煙

扶田茂雄

雑誌が売れてゐる

一
 や
 か
 飛
 、
 賣
 本
 る
 び
 一
 や
 う

あ
金
久
は
う
る
え

し
だ
ん
た
ん
、
よ
く
な
る
で
し
や
う

い
ん
あ
い
事
か
す
つ
か
り
さ
う
な
の
あ

1
今
12
、
24
7
か
3
77
L
ya
j
o

李
安
安
古
乙
礼
了

彼女は歸をした僕をとろへゝ恋しく頼笑

~~天~~
 天
 二
 丁
 〇

僕
は
家
近
く
に
な
る
と
微
風
に
も
心
が
揺
れ
る

ト彼女が何にも訊か
ない

市也

其部
也入
木部
也尸

其や
此又
サ分
我七
乞一
〜
〜

ナ
カ
メ
僂
は
わ
な
た
う
ハ

サ
尾
た
う
の

才
戈
フ
一
や
筆
力
を
世
に
う
ち
り
て
と
こ
に
け
し
る
た
ら
ば

失喪記

街道の真中に立わてゐる巡査のやうに

花屋

頭腦

恋は

辰卓

僕、感傷は古ぼりた。

我が蠟燭よ

胎と秘密と青春と

燃えながら泪は肉体内をとかす蠟燭の

いやいや

僕よ

ハツと輝き　ハツと河の中　時代、電燈の

光

心暗ければハツと砕けて粉々になれ。

OCT 17 1931

アタタの選手。

幾多の人の如く奮闘する。

世界の国々から選手が来つまつて来た。すまたあに。

勝つ！ オリンピックの選手

負けもある！ 力の限り勝つ

強国は内戦と、勝利の総力戦で数回

来る。勝利。

勝利！ 勝利！ 数回、講義、その後の神に

勝利！ 勝利！ 選手が

勝利

世界の選手の集中

勝利！ 勝利！ 選手が、見事に負けた。

負けもある！ 選手が、選手が

世界の選手が、選手が

選手が、選手が、選手が、選手が

選手が、選手が、選手が、選手が

選手が、選手が、選手が、選手が

選手が、選手が、選手が、選手が

選手

傳士や華族や金持の4か、
結成の電には、
下男や下女が働いてゐます。
近所の人は彼れや、
等々挨拶を贈ります。

彼れは謂つてゐる

娘や文子と、
移成の娘や文子と、
お星は左の角のりつとね

結成の足元が、
そこの金持の人だつて、
そんな時代が来るには、
お星は左の角のりつとね

結成の足元が、
そこの金持の人だつて、
そんな時代が来るには、
お星は左の角のりつとね

結成の足元が、
そこの金持の人だつて、
そんな時代が来るには、
お星は左の角のりつとね

結成の足元が、
そこの金持の人だつて、
そんな時代が来るには、
お星は左の角のりつとね

結成の足元が、
そこの金持の人だつて、
そんな時代が来るには、
お星は左の角のりつとね

あ
ひ
ほ

し
ふ
ふ
は
へ
こ
け

勤志
文
方情を
ため

人々は物を才子とか、社交子とか、音子、字子、文子、

新	體
か	こ
う	う
利	能
う	は
木	方
三	子
た	で
う	、
了	比
。	交
	新
	で
	、
	言
	口
	の
	、
	女
	人
	銘

誰
え
た
一
〜
—
良
美
あ
日
心
う
友
を
す
め
み
日
人
た
か
り

蛇

いづも斗にくり、
蛇を脱ぎ、
来い、

新し、
い白分を、
蛇見、
やうとす、

い、
か、
か、
な、
な、
な、
な、

春、
か、
春、
か、
春、
か、
春、
か、

赤、
新、
し、
し、
新、
し、
し、
新、
し、

赤、
新、
し、
し、
新、
し、
し、
新、
し、

蛇、
新、
し、
し、
新、
し、
し、
新、
し、

日、
か、
来、
る、
な、
う、
う、
う、

祈り老婆

病氣する人は心がいけいかに

生々ながうの病氣はどうか

前せぬ悪くひす

と理氣の方ばくかお祈りする。

僕ば健康なが、すばくく金と

と言ふたう。

お祈り^か正なりなつかし

僕ば十分お祈り大音でお祈りし。

レユーに朝晩かやうか

もろたい方々もろたい方々

と老婆はお祈りするう。

女^お祈りさる神様は困うた

と

MAY

凡のなり月がやうに来た。

朝うか下、若くしう感で。

總明お女に雲あふるな。

一斗中か、五月のあつてくうきといふ

しうそで、健康で落ち付きあふ。

赤い飯々女の眼、遠くが美しさを
を誇る来た

瞳の窓、古風な誰か。

五月の東表に空に女を心を書け

をすすんだらう。

五月、佳の心。

夜の微光、花芽にも雲を過す

忘れた心

或る女

醉ふ生きこりや 又夢かきよ

物としの 幹には大きく 森々 刻まふこゝあり

鹿なくかゝ 忘れし まるさ 一かきもたない

あたしの 柵は ぬきだけ 滋養 ぬき ぬき

に ぬき

誰か ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき

誰れも ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

し
ろ
た
へ
起
ふ
託
き
明
に
ち
に

3
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

看
下
暗
二
回
去
、
研
習
の
一
分
を
授
つ
下
儀
は
今

言ハ
 然ル
 皇
 博
 也
 皇
 子
 得
 下
 リ
 中
 大
 リ
 フ
 ハ
 リ
 五
 十
 年
 々

七
言
五
人
言
子
子

僕
は
秀
一
切
の
暗
さ
さ
を
交
わ
し
合
へ
た
い。

樟
 分
 打
 小
 ね
 、
 上
 、
 坊
 典
 幻
 学
 子
 本
 18
 、
 新
 芽

クツ
ル
ヤ
、

たい
か、
秀
物
擲
ル
下
大
き
下
痛
久
刻
事
本
〜
あ
子
一

3
9
夜
乙
ミ
、
君
人
田
人
と
一
、
生
歴
概
リ
上
東

乙子
甲子
庚辰
辛巳
壬午
癸未
甲申
乙酉
丙戌
丁亥
戊子
己丑
庚寅
辛卯
壬辰
癸巳
甲午
乙未
丙申
丁酉
戊戌
己亥
庚子
辛丑
壬寅
癸卯
甲辰
乙巳
丙午
丁未
戊申
己酉
庚戌
辛亥
壬子
癸丑
甲寅
乙卯
丙辰
丁巳
戊午
己未
庚申
辛酉
壬戌
癸亥

吾子、新生と
~~吾~~希ふ、
 吾の罪は
 永久に
 吾子

[illegible]

君は
神
キ
リ
ス
ト
を
信
じ
て
お
る

秀
沖
の
り
久
秀
を
す
く
る
、
事
毎
に
4
ふ
た
ら
う

儂
𠄎
𡗗
𡗘
乙
𡗙
𡗚
𡗛
𡗜
𡗝
𡗞
𡗟
𡗠
𡗡
𡗢
𡗣
𡗤
𡗥
𡗦
𡗧
𡗨
𡗩
𡗪
𡗫
𡗬
𡗭
𡗮
𡗯
𡗰
𡗱
𡗲
𡗳
𡗴
𡗵
𡗶
𡗷
𡗸
𡗹
𡗺
𡗻
𡗼
𡗽
𡗾
𡗿
𡘀
𡘁
𡘂
𡘃
𡘄
𡘅
𡘆
𡘇
𡘈
𡘉
𡘊
𡘋
𡘌
𡘍
𡘎
𡘏
𡘐
𡘑
𡘒
𡘓
𡘔
𡘕
𡘖
𡘗
𡘘
𡘙
𡘚
𡘛
𡘜
𡘝
𡘞
𡘟
𡘠
𡘡
𡘢
𡘣
𡘤
𡘥
𡘦
𡘧
𡘨
𡘩
𡘪
𡘫
𡘬
𡘭
𡘮
𡘯
𡘰
𡘱
𡘲
𡘳
𡘴
𡘵
𡘶
𡘷
𡘸
𡘹
𡘺
𡘻
𡘼
𡘽
𡘾
𡘿
𡙀
𡙁
𡙂
𡙃
𡙄
𡙅
𡙆
𡙇
𡙈
𡙉
𡙊
𡙋
𡙌
𡙍
𡙎
𡙏
𡙐
𡙑
𡙒
𡙓
𡙔
𡙕
𡙖
𡙗
𡙘
𡙙
𡙚
𡙛
𡙜
𡙝
𡙞
𡙟
𡙠
𡙡
𡙢
𡙣
𡙤
𡙥
𡙦
𡙧
𡙨
𡙩
𡙪
𡙫
𡙬
𡙭
𡙮
𡙯
𡙰
𡙱
𡙲
𡙳
𡙴
𡙵
𡙶
𡙷
𡙸
𡙹
𡙺
𡙻
𡙼
𡙽
𡙾
𡙿
𡚀
𡚁
𡚂
𡚃
𡚄
𡚅
𡚆
𡚇
𡚈
𡚉
𡚊
𡚋
𡚌
𡚍
𡚎
𡚏
𡚐
𡚑
𡚒
𡚓
𡚔
𡚕
𡚖
𡚗
𡚘
𡚙
𡚚
𡚛
𡚜
𡚝
𡚞
𡚟
𡚠
𡚡
𡚢
𡚣
𡚤
𡚥
𡚦
𡚧
𡚨
𡚩
𡚪
𡚫
𡚬
𡚭
𡚮
𡚯
𡚰
𡚱
𡚲
𡚳
𡚴
𡚵
𡚶
𡚷
𡚸
𡚹
𡚺
𡚻
𡚼
𡚽
𡚾
𡚿
𡛀
𡛁
𡛂
𡛃
𡛄
𡛅
𡛆
𡛇
𡛈
𡛉
𡛊
𡛋
𡛌
𡛍
𡛎
𡛏
𡛐
𡛑
𡛒
𡛓
𡛔
𡛕
𡛖
𡛗
𡛘
𡛙
𡛚
𡛛
𡛜
𡛝
𡛞
𡛟
𡛠
𡛡
𡛢
𡛣
𡛤
𡛥
𡛦
𡛧
𡛨
𡛩
𡛪
𡛫
𡛬
𡛭
𡛮
𡛯
𡛰
𡛱
𡛲
𡛳
𡛴
𡛵
𡛶
𡛷
𡛸
𡛹
𡛺
𡛻
𡛼
𡛽
𡛾
𡛿
𡜀
𡜁
𡜂
𡜃
𡜄
𡜅
𡜆
𡜇
𡜈
𡜉
𡜊
𡜋
𡜌
𡜍
𡜎
𡜏
𡜐
𡜑
𡜒
𡜓
𡜔
𡜕
𡜖
𡜗
𡜘
𡜙
𡜚
𡜛
𡜜
𡜝
𡜞
𡜟
𡜠
𡜡
𡜢
𡜣
𡜤
𡜥
𡜦
𡜧
𡜨
𡜩
𡜪
𡜫
𡜬
𡜭
𡜮
𡜯
𡜰
𡜱
𡜲
𡜳
𡜴
𡜵
𡜶
𡜷
𡜸
𡜹
𡜺
𡜻
𡜼
𡜽
𡜾
𡜿
𡝀
𡝁
𡝂
𡝃
𡝄
𡝅
𡝆
𡝇
𡝈
𡝉
𡝊
𡝋
𡝌
𡝍
𡝎
𡝏
𡝐
𡝑
𡝒
𡝓
𡝔
𡝕
𡝖
𡝗
𡝘
𡝙
𡝚
𡝛
𡝜
𡝝
𡝞
𡝟
𡝠
𡝡
𡝢
𡝣
𡝤
𡝥
𡝦
𡝧
𡝨
𡝩
𡝪
𡝫
𡝬
𡝭
𡝮
𡝯
𡝰
𡝱
𡝲
𡝳
𡝴
𡝵
𡝶
𡝷
𡝸
𡝹
𡝺
𡝻
𡝼
𡝽
𡝾
𡝿
𡞀
𡞁
𡞂
𡞃
𡞄
𡞅
𡞆
𡞇
𡞈
𡞉
𡞊
𡞋
𡞌
𡞍
𡞎
𡞏
𡞐
𡞑
𡞒
𡞓
𡞔
𡞕
𡞖
𡞗
𡞘
𡞙
𡞚
𡞛
𡞜
𡞝
𡞞
𡞟
𡞠
𡞡
𡞢
𡞣
𡞤
𡞥
𡞦
𡞧
𡞨
𡞩
𡞪
𡞫
𡞬
𡞭
𡞮
𡞯
𡞰
𡞱
𡞲
𡞳
𡞴
𡞵
𡞶
𡞷
𡞸
𡞹
𡞺
𡞻
𡞼
𡞽
𡞾
𡞿
𡟀
𡟁
𡟂
𡟃
𡟄
𡟅
𡟆
𡟇
𡟈
𡟉
𡟊
𡟋
𡟌
𡟍
𡟎
𡟏
𡟐
𡟑
𡟒
𡟓
𡟔
𡟕
𡟖
𡟗
𡟘
𡟙
𡟚
𡟛
𡟜
𡟝
𡟞
𡟟
𡟠
𡟡
𡟢
𡟣
𡟤
𡟥
𡟦
𡟧
𡟨
𡟩
𡟪
𡟫
𡟬
𡟭
𡟮
𡟯
𡟰
𡟱
𡟲
𡟳
𡟴
𡟵
𡟶
𡟷
𡟸
𡟹
𡟺
𡟻
𡟼
𡟽
𡟾
𡟿
𡠀
𡠁
𡠂
𡠃
𡠄
𡠅
𡠆
𡠇
𡠈
𡠉
𡠊
𡠋
𡠌
𡠍
𡠎
𡠏
𡠐
𡠑
𡠒
𡠓
𡠔
𡠕
𡠖
𡠗
𡠘
𡠙
𡠚
𡠛
𡠜
𡠝
𡠞
𡠟
𡠠
𡠡
𡠢
𡠣
𡠤
𡠥
𡠦
𡠧
𡠨
𡠩
𡠪
𡠫
𡠬
𡠭
𡠮
𡠯
𡠰
𡠱
𡠲
𡠳
𡠴
𡠵
𡠶
𡠷
𡠸
𡠹
𡠺
𡠻
𡠼
𡠽
𡠾
𡠿
𡡀
𡡁
𡡂
𡡃
𡡄
𡡅
𡡆
𡡇
𡡈
𡡉
𡡊
𡡋
𡡌
𡡍
𡡎
𡡏
𡡐
𡡑
𡡒
𡡓
𡡔
𡡕
𡡖
𡡗
𡡘
𡡙
𡡚
𡡛
𡡜
𡡝
𡡞
𡡟
𡡠
𡡡
𡡢
𡡣
𡡤
𡡥
𡡦
𡡧
𡡨
𡡩
𡡪
𡡫
𡡬
𡡭
𡡮
𡡯
𡡰
𡡱
𡡲
𡡳
𡡴
𡡵
𡡶
𡡷
𡡸
𡡹
𡡺
𡡻
𡡼
𡡽
𡡾

九生
ies
le
致
了
了
二
二
何
~~九生~~
九生
友
ハ
6

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

君は僕も愛する。

ある女と結婚するつもり。

一幸福なその女は誰か。

乙女は服頭をうさぎにみた。

一結婚な人か揃うしうま。

あう女はあうか。

いつちを撮るのも

傷やん電にやあうも俺が俺だ。

傷やんや電に俺がやんか。

今半の賭博は會は賭博場だ。

エタがさうだ。

最而の結婚に破れをうける

社会の不利はこゝに在る

さうな女があつた

選席たうたら、ぬきルなうたら

どんな女だうと

心一つで僕は結婚してみる

僕は結婚してやる

春さかす朝。

物憂い傷きや生活は今日たけやな
若さが夢を正にさす人た。
あや、あうれもなり窓裏色を
羅い夜回衣で新聞をさす向う、主婦
夕陽がさす。深くさす。
顔の輝き。鼻のさす。這う。243。
おんたけさから、
薄曇をけつて。

女人のまへ髪

田盛姓

ハ
ン
ン
フ
物
を
包
斗

懐
 廣
 ソ
 来
 夢
 苦
 呼
 下
 頼
 毛
 蘭

く
し
、
腰
を
負
け
て

蘇柳フナ
フ
イ
チ
フ
稿
之
婦人

あゝは白事婦人
ーとちと
曰ひ
領け
る

まへうしろをニミくの子供達を、取り留めて

加州の
農園に
働く女
は白人
婦人か
り

移
也
に
嫁
り
び
き
こ
、
女
人
な
に
傷
り
こ

曰事人は毛髪
附たり
きろ
わ
木

馬にても
考り傳へて

船は婦
の
か
・
悲
し
の
か
い

四月の廿五日
大田に
照り映へる
陽気

人キレ
カ
の
大漢
たち
に
ま
つ

つ
つ
ま
し
く
り
ち
む
掃
ち
白
本
婦
人
の
後
年

女
子
子

所傳の書、
 細く
 牛久
 田中
 三
 十
 七
 八
 九

ヤ
ヤ
う
ん
こ
も
ろ
け
し
下
さ
い

2
4
は
心
に
は
く
の
う

アラスカの足跡

アラスカ州の生活は愉快ですと言ふ。

幾多の新人は、母を慕ふ。

時博の徳義を推し進めしむ。

氷山を遙く望み、春を待ちしむ。

北海に遊ぶ。うさぎの足跡は。

ふりかへて、雪を踏みしむ。

足跡あり。

土人の足跡あり。

小川のほとり、雪に覆われ、イタリヤや。

入るに力なく、雪を踏みしむ。一人、中を歩む。

雪のふりかへたり。

雪のふりかへたり。

雪のふりかへたり。

雪のふりかへたり。

雪のふりかへたり。

嬢様

主婦のあもはく。

素人下宿の主婦は三十五

歳生は日本から来たばかり二十三。

奥人は半日無経行方不明になる。

主婦は主人に言う。

「あの人は妻の婿のやうな。」

学生は今朝に話さず

「や伯母さん、4たのた。」

主婦はそれに認める

「表遣舞かアヤしく4之て。」

「いいえ、快い」と承は、
~~微美する~~

するとその早も娘の日も

主婦は、
~~知~~大変親切に
~~和を~~なします。

何人
事
何人

彼は、若く、健康で、朝から夜まで、共々働いて、

共鑒堂

今、失禁しておいて、二テニク、ル、の、ま、す、。

第 二 人 々 9 本 三 一 二

一、毛衛習丁毛
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、

倭事^に姑^に婚^の儀^に無^心す^時倭^共笑^する^いて^了
 倭事^に姑^に婚^の儀^に無^心す^時倭^共笑^する^いて^了

倭
事
に
姑
姑
の
様
會
南
の
勉
無
た
下

衛野の成心

街の生活を知りたい

人同知否否

何の生活か

七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

街の生
14
何
27
の
ん
り
三

自勅連
惠事、
多為
き

衛
の
生
階
の
何
の
心
蔵
を
朝
の
の
に
一
や
う

橋子 今 橋 (過) 主 丁

木陰 ~~不~~ 牛もや富毛み友

やばい

牛も十鳥もみなうぢやなうか。

詩、ありとて、林、田盛雄

お母さん

御達者でいらつしやりますか

所も無事で働いてみます

御体心正さう

一僕の十日前の手紙を。

達者で働いておられます

お母さん

御安心下さう

昨日も一昨年も

今日も亦健やかに。

かあ

愛うめあめ

愛事々食の卓に

におり眼をしばたく僕に

御達者ですか。

一と人は挨拶する。

何か幸福か。

彼は若く、健康で 朗らかな

共産黨員です

今、失業して

おーテノカにいます

貧しい人々の 斗かたとして

いつも街頭デモに 参加します

彼は二冊の 本に4日間 3時

徹夜 笑する人です

お健達には

結婚の機会はない

好い娘がいます

結婚は 出来ぬ。 今の 状況で 結婚は 出来ぬ。 今の 状況で 結婚は 出来ぬ。

今日の感想

力はものすてり

やきほのにはへに濡れる

夜がある。

女人の瞳をみるのは可怖い

そのめには睡意が宿つてゐる。

的のなり今日の感想
情は

流るるままだ

傷いて

只傷いて

また夕暮がある。

お丁屋女。ー

素顔で刺さるの書つて女を驚かします。

身の内女の寝姿も覗きまじった。

顔に飾髪を散らす。

口でいさー、顔がみるみる

胸に二つ、黒の梅。

ほや白やうでほや赤い。

おはけの頃から女も一人可愛かりたあんなに

さあ、このつぼみか、いまだか、あんなに

女、このつぼみか、あんなに

おはけの頃から女も一人可愛かりたあんなに

さあ

春の今頃。

斗ふんなが、³效外にある

衛ゑふ3春はるにつなりうし

トうニづかしーにーにも歩ある来る

斗ふんな野の心好き

ピーナツきの声も聞く、菊きくの花

人は

斗ふんなきもたくし斗ふたり

女をのやはんが、羅ら物ものの下にある

斗ふんなうたうし斗ふは、效外の、自叙事の中に。

ゆく春を人々の心に今頃に来てる

失業者の群と言ふ

今頃は效外の心にもうた

斗ふんなは、春は、^人效外は、

失業者は、^人後のなりとも、^人12斗ふにる

失業者は、^人にもうたる。

その生活



若草芥之

凡糸を繰る小女が

柳の花も
散る
春は
来

カ
ー
ー
の
糸
子
定
モ
。
憶
々
出
子
乙
セ
モ
あ
る
。

た
が
が
は

昨日通った仕事路を

煙草もやめ
酒も、
悲しむもやめ

空室ありけりと

和意告投也
引く
芝巾く
性た眼の眼
やうなす
ひす

漢子
子
子
子
子
子
子
子
子
子

なづめ

昨夜の席上四六を擲

三

[illegible]

月
 毎
 日
 食
 屋
 へ
 来
 る

良辰美景
人生如夢
一瞬即逝
及時行樂

羅新

夜の~~た~~は~~た~~懐~~た~~を

夜
入
其
子

かしはの
 にほり
 ぬ
 需
 れ
 る
 所
 〇

宿しみる

さめの瞳は瞬電か様々なり

女人の眼を
24
3
4
5
可怕

的
の
な
今日
の
感
情
は
流
る
る
ま
ま
枝

まへ

傷
ソ
て
、
只
傷
リ
て
、
傷
キ
ス
が
け
る

夕暮かき

子

夫人の感謝

糸
 は
 下
 ひ
 ・
 ね
 い
 る
 か
 大
 変
 好
 士
 ひ
 す
 〇

或
了
文
の
、
ラ
47
才
の
子
供
の
男
子
も
自
ら
働
け
し

あました
その時、
この字
の夫人
が、
事務所、

味方の
多めは
果物を
。 瓶
眼に
涙を
流して
臺所

か
う
主
へ
来
う
来
ま
し
た。
私
が
不
意
に
衝
た
し

乙
夫人
氏
明
女
左
昭
月

と
う
そ
、
す
ま
ま
え
ん
が
、
、
そ
の
お
い
し
さ
、
い
ま
も
何
も

升
9
おに
変
へ
へ
下
さ
う
ま
く
い
し
と
夫
人
は
和
平

や
カ
下
毛
情
乙
筆
付
カ
ネ
一
左

46
 は
 利
 邦
 に
 にも
 衛
 士
 だ。

夫人は永く結婚生活に子供が生まれなうた。

子侯の墓

舟
 収
 庄
 一
 下
 十
 下
 不
 下
 下

糸
糸
糸
は
ヤ
ス
を
聴
キ
ト
ら
糸
糸
糸

の
表
情
を
中
に
。 静かな

子集

[illegible]

櫻 挨換

羅新

すめ
世重
りり
やつ
ます
る

物も是者い
物も是者い

下
上
フ

同

儻十年前の
紛々

开身毛

馬交く上におかし

此達者に傷をあたす。と、
後には、

今日も書信集を
便利す

[illegible]

幸ひとて
 是の如く
 再々
 往リテ
 儀ニ
 来リ
 又、

僕が同窓に
僕が同窓に

に
お
も
た
い
な
ま
の
し
ら

庚申 九月 廿七 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

変ふと浪で
仕事
夕食、卓上に

に
み
り
眠
を
し
た
た
く
倦
よ

即達者なりと人は換換する。

霜新

閑者の眼

空を貝にけこめる

折木のしただきでヤモリを

書其の朝多き

空多は乾つて書老は黙つてゐる

枯木のいただきでヤモリを

之は看くすんで黙こゐる

ヤモリも黙つて

折木にしかつてゐる

句ひふかて、ヤモリを

浮かたり、ただき、サウたり、

折木、黙つて、め、運、木、ぼ、つ、んだ。

折木、黙つて、め、運、木、ぼ、つ、んだ。

折木、黙つて、め、運、木、ぼ、つ、んだ。

折木、黙つて、め、運、木、ぼ、つ、んだ。

雪の拾った詩

海

新

解

描

かにが岩の上を這う 遊々とした ありのほ 痛恨た

新くく探るなりもさうし ぬくちうの

足魚の 海面を 跳ね上りの 足快だ。

はちきある力を 躍うて ありんたう。

豊夫か、一人 美うしから 海を 遊べし。

富本と 労働生活に 疲れた 休むに せう。

果ては ありんたうて ありんたうて ありんたうて。

あつた ありんたうて ありんたうて ありんたうて。

白姓は 木馬の ありんたうて ありんたうて。

食ふに 用ゐる ありんたうて ありんたうて。

世間の ありんたうて ありんたうて ありんたうて。

あつた ありんたうて ありんたうて ありんたうて。

あ
お

本橋 婦人 12

今は忘れた、嘗て、その名を訴あてても
なり。数軒前の私の夕乞の料理をいそぎ本
婦人と、^{（おは）}郵葉電の前の出草した
婦人は、^{（おは）}済々と、身由^{（おは）}不孝の数々を心辭
に物語る。

私は、見ても聞かぬ、なかつたこの婦人の
日記、^{（おは）}運な話、始めは上つ調子で、

と五たか、^{（おは）}敗^{（おは）}落^{（おは）}つた親しきと、^{（おは）}信^{（おは）}宅^{（おは）}
に、^{（おは）}方^{（おは）}言^{（おは）}等^{（おは）}、^{（おは）}遂^{（おは）}、^{（おは）}心を衝^{（おは）}た本^{（おは）}つた。

魅めや、^{（おは）}勸^{（おは）}きの^{（おは）}書^{（おは）}を贈^{（おは）}つて、^{（おは）}別^{（おは）}本^{（おは）}を

ついに、^{（おは）}心^{（おは）}を^{（おは）}吐^{（おは）}つた。
ついに、^{（おは）}心^{（おは）}を^{（おは）}吐^{（おは）}つた。

FEB 21 1932

冬休の事

前日埃い道路に爆音を續け工夫

師等はヤケに金持住宅区域をかりかきけし

あるやうにせよ。

小雨が降りしきつて、

雪ふり^{教訓}端に飛つてゐる

オレニヤリヤンから怒鳴り出す 濡れ衣に

二階の窓から顔を出る金髪者

俺はおおおおとみやうに腰を落す付けて

白うしろ、紺色い、エ、おううう、山井と自轉車に尻を

踏はる。電物を運^{おん}運^り物や運^り

芽生え、お尻を雨に濡れしめる。

やがてお尻を濡れしめる。

冬は木も草も伸びない、雨の降るから

かーん、仕事に手を付けよう、あつた、あつた、

夏になると、今更には、あつた、あつた、

と、お尻を濡れしめる、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、

あつた、あつた、あつた、あつた、

血 壑 百 々 十 四

血 壑 百 々 十 四

僕 の 心 は 砂 埃 を 歩 け る 了 。 血 壑 帯 を 送 け

て る 了 。

僕 は 自 身 の 死 體 を 升 っ て る 。

瞳 を つ ち っ て る 。

女 の 娘 、 女 の 娘 。 一 女 の 娘 の 體 は 誰 人 だ っ た け 。

カ ン ン ン ン ン 電 燈 額 後 、 辞 書 、 う け 才 。

夢 は 散 ち っ て る 。

枕 時 計 の 音 が 毒 草 の や う に 迫 っ て 来 る

ナ リ 、 ナ リ 、 ナ リ 、 ナ リ

醫 者 が 言 っ て 人 だ 。

百 々 十 四 — 百 々 十 四 — 百 々 十 四

毫 釐 の 點 差 だ

映寫さるる水仙の香り

新刊

愛嬌の瞳をうつゝある人々のスクリーンに

猫も執物に歸り狂ふ

憎めば憎む程、

水仙の香りする彼女の髪が

晒のふりタイにからみつく

夢に漂き

神様の辞書

あ言護符を紛失した所は書き下す

母の言葉を想い出す

1 似身離さす母と懐つてゐる姿

そこで神様の辞書を思い見たんです

1 あ言護符は心弱き母の母たり

1 母の胎に觸るる者は地獄にゆけ

またあ言護符を失くした

あ言護符はあしきものであり

心いふ言ふ、あ言護符はあしきものであり
1 あ言護符はあしきものであり

恋、假名書き、

飛新

芽生へて枯れぬ

芽生へて枯れぬ

芽生へて枯れぬ、三度目、愛憎か

窓硝子に曇れぬ片假名書き

カセリナクぬモキノハワオケル

イキ一フモアヤ、今フモアヤ

エトリカナイテ井マス

雅利

孤獨なる眠り

壁に就け目か涙りゝゐる

身より前に僕が空回着てゐる

雨垂れか忘るるを故に思ふ

僕と壁の境りの白く寂しき

この一場面を何と譯しやう

一 孤獨なる眠り

や否、此の體に於て

一 襦袢に在る、一 馬鹿
一 不いじめ。

ホ
オ
カ
ク
ケ
コ
サ
セ
ソ
タ
チ

同も
無く
僕
古
々
イ
ヤ
カ
大
道
中
へ

2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526

す
と
、
と
、
撞
を
、
大
型
白
鳥
兼
人
馬
走
一
人

3

倭
は、
行
き
午
れ
の
遠
坂
を
つ
り
上
り
て
な
か
り

佐倉

~~ニ~~
~~ニ~~
ト
~~ヲ~~
~~ハ~~
ウ
向
し
は
瘡^二
睡^レ
眠^ル
リ
始
め
た

12
 1
 2
 12
 仰
 白
 4
 12
 な
 左
 書
 下
 1
 華

椰子
子
う
実
を
つ
つ
く
小
白
の
豆
豆
を
別
に
い
ろ
た
の

ア
ー
ア
ア
ー
と
う
ん

事
を
知
る
に
あ
ら
ず
に
一
方
を
持
つ
て

夜の呼吸

探照燈、月光、ア、テナ

新は、帽子もネクタクもつけお散歩する

街は、癒く、騒ハ、人々。

新は、黙して、狸歩き、大手を揺る

明日は、又今日、一日、^{に息を}吐く、^{吐く}

~~明日は、又今日、一日、吐く、吐く~~
微かに寝れで呼吸する。

痴癪病院

そこに吾等友人生かゝる。

晝宵に、今風に、お前には

娘は成程すう内体で、お前には

そこに美し、お前には

生活を習ふ、お前には

街を田舎に置く、お前には

ここに、お前には

山に、お前には

お前には、お前には

今日の感想

止めを喰つて曲げて貰ふて、
 私は受用紙を採りてつて接した。
 乙乙に今日の感想を横たある。
 所費者の意下の幽暗、寂きよ。

晩秋、

眠

赤は重なるの寝所にて微睡をとれた。
 顔の密峰に毎年の節の風が舞非なる。
 や春陽の顔の落葉を暖め
 意氣に流れた娘が浮つたり沈みたり
 空をに瞳をみたり
 星一つ 雲一つ
 何處から、うやうやの光を撫で、やく
 秋は薄いと
 秋は感じやすにぬれやうか。

勞傷

髪の色に火が點いたんた。

蘇州を蒸し焼きしてゐるんだ。

芒草に散りた水が炎陽つてゐる

糸は、柳子の根にややかんで、手袋を染み出し

書きに漏りた。

一瞥、水で洗つた如くに。

傷くと、社を、香を金で計算した。

たか、

計算の

「算」、と木が、労働生活、
ひたひた。

初めから終りまで

1931 7 27

唄フてよ、何か。

と私は娘に囁きました

娘はバヤノの前で、私を右に腰掛けさせて

気軽にアムルで歌ひ初めました。

一キス、ミスイトハート。

一節終るその刹那に、私共の横に立つてみ

た小女が、大声を揚げて飛びあしました。

小女は、両掌の指を、私共の眼の前に突き

出して、笑ひ擡げました。

この聲が、~~娘~~慕望を、小女の父が二階から

飛降りつけました。

それから、永いこと、私は娘に逢いません。

噂さでは、私が失志したと言います。

私は、娘の方が先に失志したんだと。

初めから終り迄を語り終ります。

新技巧派

其の灰燼が^清明裡なり
アアにて何れ落ちたの
で

夫は新筆に笑顔を
送った。

岩のあふ風景

舊き澄き一太大道は

明快に白傷車を受換する

路信に對つた毛布は夫婦生活の清一色に

紅葉を純彩色一色の

小児は足下の牛車を^睜め

岩の上でサニトくくくを
頼張るゝある

屋上の感嘆

屋上の国旗とアンテナ

何たる虚妄を

室由は女郎の装飾である。

願をしやくつと授授交う

あの老人も

僕と同様に十た。

如

結局
惚木
垣で
青春を
暮らす
哉

最初の女は、
殘~~女~~さん
ぢや
う
え

牙
 二
 九
 女
 は
 物
 鐵
 を
 喰
 ち
 ぎ
 ち

才三の女は、
才口にしたが、
が運命で死に
きた。

牙
 四
 重
 日
 9
 52
 最
 近
 9
 女
 27
 3
 存
 人

向
所
か
ら
鳩
木
と
来
ま
し
と
あ
・
た
か
片
眼
と
す

從
思
家
12
姓
弟
2
2
1
三
四
日
片
眠
2
步
1
精
情

た
ん
ゐ
す
。

危
く
ゐ
危
く
ゐ
、
止
あ
け
、
毛
く
い
す
か
、
、
、
、
、

石
乙
ろ
大
つ
乙
震
信
能
た
つ
一
街
角
地
中

片
眼
は
恐
ろ
し
く
人
同
を
迄
地
舞
う
す
る
も
つ
ひ
ろ
た
。

性をいかにしますか

是乃女學所

あ
の
姫
は、
う
し
足
り
な
つ
か
う
可
愛
つ
ひ
す
う
あ。

OCT 23 1931

愛慾

ふりには、
糸の前の舗道に煙草の
灯が飛んだ
自動車は並木の
暗い蔭に停められて、
開か
うれて、
ぐいぐい
華れて、
霧に包まれ
て
第3。

娘を育てた乳房

あの娘は母親に似てゐる。

僕等の憂鬱はめんくろつたんだ。

娘の母が原化群して、微笑むので、

犬

ブルにワクッて来る。

檻の獅子に小便をかけられた男のやうに
顔を曇めて。

二十日 鼠

^黄菊「他陸したか、秋かうた。

侯「蒼白く遠を振り捨てたんか。

二十日 鼠「花も、起もいらぬ

もう一息たし車を返してけ。